

三崎臨海実験所の採集人

鈴木英雄（臨海実験所）

三崎の臨海実験所は、明治19年（1886年）現在の三崎の町にわが国最初の、世界でも古い臨海実験所の1つとして設立された。そこでは周辺の豊かな動物相についての研究が盛んに行われていたが、生物学の研究が盛んになり学生・研究者の数も増加したのに伴い、旧実験所は狭溢となったため明治30年に、より生物相の豊かな現在の油壺新井城址に移設された。この歴史的な建物も関東大震災によって大きな被害を受けたため、新たにレンガ造りの建物が建てられた。即ち水族館が研究者、学生の研究材料の飼育、一般に対する動物学啓蒙を一層押し進める為昭和7年現在の位置に新築され、それから4年後の昭和11年（1936年）に本館が竣工された。しかし水族館、実験所を利用する研究者、大学院生が増加し研究のスペースが足りなくなったため、水族館は昭和46年9月1日よりその公開を中止し研究室、動物の飼育室として使用して今日に至っている。

この長い実験所の歴史の中で研究者のために影の力となって来た採集人について時代を追って紹介する。

青木熊吉氏、通称“熊さん”は元治元年（1864年）に三崎の漁師の家に生まれた。小学校にはいかず、子供の頃から海に出ていたので海産動物の宝庫だった相模湾を自分の庭のように熟知していた上、延縄などの漁法に巧みだった。家が実験所の近くだったので明治20年ごろから手伝いに来ていたが、正式に実験所に雇われたのは明治31年実験所が油壺に移転した直後で、昭和初期まで活躍し遠く欧米にまでその名を知られた。熊さんは、記憶力、頓智ともに抜群で彼が命名した海産動物名はその体を適切に表しており今日に残っている。動物分類学の講義には必ず“三崎の熊さん”が命名した動物として登場してくる。

出口重次郎氏、通称“重（ジュウ）さん”は昭和2年（1927年）より採集人として半世紀近くも実験所に勤務し、その間実験材料を採集し続けただけでなく、その飼育法や標本作成にも新機軸を開拓した。また、終戦前後の困難な時期には単身で実験所を守ったことで知られている。直接世話になった者は研究者だけでも500名を超え、実習で厄介になった学校は関東一円の10数校に及ぶ。



歴代の採集人

左より 青木熊吉、出口重次郎、関本貞治の三氏

昭和39年（1964年）には長年の労に対して黄綬褒章を受けた。

関本貞治氏，通称“貞（テイ）さん”は昭和11年（1936年）より勤務，人情厚き人柄で，人間起重機と別名称される力の持ち主であった。支那事変，大東亜戦争と二度にわたり入隊され，除隊後戦争で荒廃した実験所の復興に出口氏と二人で努力された。昭和30年代にはいと実験所も活気が戻って研究者も多くなり，その分だけ材料の採集

に大変苦勞された。

現在の採集人は，鈴木英雄，通称（ヒデ）さん”昭和28年（1953年）勤務，関本実，通称“実（ミノ）さん”昭和42年（1967年）勤務，関藤守，通称“守（マモ）くん”昭和59年（1984年）勤務，の三人で，熊さん，重さん，貞さんの残した良き伝統を受けつぎ，採集や実験所の運営に奮闘努力しております。また，実験所の良きアシスタントとして共同研究の一端を担っております。